



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
海上技術安全研究所 国際会議報告

会 議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）救命及び防火分科委員会（SC 1）、同救命作業部会（WG 1）、梯子等作業部会（WG 2）及び防火作業部会（WG 3）レイキャビク会合

開催場所： Hafnarfjardarkirkja Conference Center, Strandgata, Hafnarfjordur, Iceland

会議期間： 2016年5月24日～26日

参加者： オブザーバーとリエゾンを含む11機関より30名

海技研からの出席者：

太田 進：国際連携センター長

宮崎 恵子：運航・物流系運航解析技術研究グループ長

概要

- ISO/TC 8/SC 1（以下、SC 1 と記す。）は「膨脹式救命設備の整備」に関するシリーズ規格案に合意し、FDIS 投票に付すことにした。
- SC 1 は「可搬型ガス検知器装置」の規格案に合意し DIS 投票に付すことにした。
- SC 1 は「落水者検知装置」の規格案に合意し DIS 投票に付すことにした。

主な貢献

太田は、可搬型ガス検知装置の規格案（WG 3）、パイロットラダーの規格改正案（WG 2）、膨脹式救命設備の整備の規格案（WG 1）の審議に参画するとともに、適宜、国際海事機関における救命設備及び火災安全に係る審議状況を説明し、審議に貢献した。

宮崎は、落水者探知設備を除く救命設備に係る審議全般（WG 1）に参画し、「膨脹式救命設備の整備－第 5 部－膨脹型救助艇」、「救命艇及び救助艇のためのシーアンカー」及び「膨脹式救命器具のガス膨脹システム」の規格案についてはプロジェクトリーダーとして説明に努めた。また、新規作業項目の候補である極海コードに対応する救命設備規格に係る調査結果について説明し、審議に貢献した。



ISO/TC 8/SC 1 レイキャビク会合参加者



主な審議結果

当所職員が担当した事項の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

全体会合は初日の午前中と最終日（三日目）に実施し、初日の午後と二日目は各 WG を並行して開催し、さらに WG 1 は三日目にも二時間程開催した。クルーズ船用の落水者探知設備の規格について集中的に審議するため、WG 1 は、同規格を審議するグループと、その他の救命設備関係規格を審議するグループに分け、並行して審議を進めた。

1 救命設備に係る規格案

1.1 ISO 18079 船舶及び海洋技術－膨脹式救命設備の整備

この規格シリーズは、膨脹部を有する救命設備の整備に関するもので、「第 1 部：一般規定」「第 2 部：膨脹式救命いかだ」「第 3 部：膨脹式救命胴衣」「第 4 部：降下式生存艇乗込装置」「第 5 部：膨脹型救助艇」からなる。WG 1 は、各規格案について詳細に審議した上で規格案を作成した。SC 1 は、この規格案を DIS 投票に付することにした。

1.2 ISO 19912 イマーション・スーツ、耐暴露スーツ及び常時着用型スーツの整備

WG 1 は、審議の上で規格案を作成した。SC 1 は、この規格案を DIS 投票に付することにした。

1.3 ISO 19897 退船システム（生存艇乗込装置）－着水条件

WG 1 は、プロジェクトリーダー（PL）が用意した規格案は、2016 年 1 月にニューオーリンズで開催された WG 1 の中間会合（WG 1 前回中間会合）における合意に沿ったものであることを確認した。SC 1 は、この規格案をそのまま DIS 投票に付することにした。

1.4 ISO 19898 落水者等の回収装置

WG 1 は、時間の都合により PL が用意した規格案を審議できなかった。SC 1 は、この規格案をそのまま CD 投票に付することにした。

1.5 ISO 15738 膨脹式救命器具のガス膨脹システム（改正）

WG 1 は、PL（宮崎）が用意した規格案について審議し、主な修正の方法について合意した上で、本年 12 月に予定されている WG 1 の中間会合でさらに審議することに合意した。SC 1 は、PL に案の作成を依頼した。

1.6 ISO 17339 船舶及び海洋技術－救命艇及び救助艇のためのシーアンカー（改正）

WG 1 は、PL（宮崎）が作成した案は、WG 1 前回中間会合における合意に沿ったものであることを確認した。SC 1 は、この規格案をそのまま DIS 投票に付することにした。

2 ISO 799 パイロットラダー（改正）

WG 2 は、詳細な審議の後、規格案を作成した。SC 1 は、この規格案を DIS 投票に付することにした。



3 ISO 19891-1 船上で用いるガス検知器の仕様—閉鎖された区画の雰囲気試験のための可搬型ガス検知器

この規格は、本年 7 月 1 日より SOLAS 条約第 XI-1 章新 7 規則により要求される閉鎖区画への立ち入り前にガスを計測するための検知器の仕様をより明確にするため、我が国主導（プロジェクトリーダー：日本船舶技術研究協会松本氏）で策定作業を進めている。昨年 10 月に京都で開催された WG 3 の中間会合で作成した案は、本年 3 月に公開仕様書（PAS：Publicly Available Specification）として公開された。WG 3 は今次会合において、PAS 投票の際の各種コメントを検討した上で、PAS を修正した規格案を作成した。SC 1 は、この規格案を DIS 投票に付することにした。

4 次回会合

次回 SC 1 の会合は、来年 5 月に我が国で開催することに基本的に合意した。また、WG 1 の中間会合は本年 12 月に英国のプールで開催することに基本的に合意した。